

熊本都市圏総合交通計画協議会

第7回委員会

第6回委員会、第10、11回幹事会のご意見

令和7年11月26日（水）

第6回委員会でいただいた主なご意見

主なご意見【第6回委員会】	対応案
●これまでの協議会について	
委員会の議事録は毎回公開していただけないか。	第6回委員会から議事録を会議資料と併せて、協議会ホームページにて公開。
将来人口フレームについて、現在、外国人旅行者が非常に多くなっており、熊本県でも福岡、大分に次いで訪問者数が多く、年間56万人ほどが訪れている。そういった交流人口は将来推計に含まれていないのか。	都市圏外から想定される交流人口も考慮した将来推計を実施。
都市交通マスタープラン策定に向けて、パブリックコメントだけでなく、県民・市民の意見聴取が重要であり、意見聴取の仕方を工夫するべき。	今後の取組みとして、モニタリング結果の共有と合わせて意見聴取を検討。 また、利用者の気運醸成に繋がる首長による打ち出し方や関係する会議体との連携など、本マスタープランの実現に向けた効果的な手段を取り入れる。
●現行都市交通マスタープランの振り返りについて	
振り返りについて、何が問題であったのか、住民目線でわかるように説明していただいたうえで、次の計画につなげるべき。課題が曖昧なまま先に進めば、また同じことの繰り返しになるのではと懸念している。	都市圏交通の現状や課題を、住民が理解しやすい形で整理。
基幹公共交通の整備は「軸」で進めると言っていたが、実際の施策は点にとどまっていて、線としての展開が見られない。軸で評価するには、面的・線的な取り組みが必要。	公共交通施策や道路施策を一体的に進める必要があり、関係部局と連携して取り組むことをマスタープランで記載。
公共交通は利用者目線が重要であり、ハード整備を行ったとしても、運転士がいらない、料金が安いといったことでは利用が進まない。渋滞半減や公共交通利用2倍を掲げるなら、利用者を前提とした計画でなければいけない。	ハード整備だけでなく、運転士不足といった供給側の問題に対してもマスタープランで言及し、その対策も併せて提案施策に記載。
これまで公共交通に十分な投資をしてこなかった。現行のマスタープランでも公共交通の重要性は強調されていたが、予算をつけて利便性を高める取組みは十分には行われなかった。 利用者にとって公共交通が便利になる施策が実現しない限り、どれだけプランで提案しても意味がなく、本気で現状を変える計画と施策実行を期待している。 この問題は、県や市だけではなく、国の制度にも問題があると認識しており、自動運転など表面的な施策にばかり補助金が出る一方で、公共交通の基盤路線の拡充には投資がされにくいのが現状の制度。 とにかく公共交通への着実な投資につながる計画が重要。	公共交通への転換を重要な視点と捉え、行政による取組や制度・財政支援、また、各主体の役割と連携のもと公共交通施策を推進していくことを記載。

第6回委員会でいただいた主なご意見

主なご意見【第6回委員会】	対応案
● 現行都市交通マスタープランの振り返りについて	
「なぜこれまで実現できなかったのか、その理由は何か」という問いであり、その原因として、「熊本都市圏にはこうした問題があるからこうしよう」、あるいは「ここは不便だから何かを整備しよう」と、そういった個別対応の積み重ねのような形で計画が組み立てられてきた点が考えられる。 また、需要は増える一方だからそれに追いつくように整備していけばいいという「追随型」の発想が強く、それにより「この問題をこのレベルに抑えるには何が必要か」といったアプローチが十分でなかったことも、計画が実現に至らなかった大きな要因。	目指すべき将来の姿、目標値を4章の冒頭で記載し、それに向けた方針、提案施策といった構成に変更。
マスタープランの策定を担うのはこの協議会と幹事会、実際に担当するのは事務局であるが、アクションプランの担当チームとは完全に分離されている。本来は、マスタープランをつくった側が責任を持って、次のプランまでの間にその内容を実現していくべきですが、そのような体制になっておらず、「策定チームと実行チームの熱量が違う」ことが、組織的な問題として大きかった。	5章の今後の取り組みに、マスタープランの実効性を高めるため、行政や交通事業者などの関係機関の役割を明確化したうえで、設定した目標値に向けてモニタリングを実施し、関係機関や住民にしっかり発信できるような体制を構築することを記載。
評価にも課題があり、主に「量」で評価しており、例えば道路交通の場合、台数が減っていても混雑がひどくなるのは、容量の設定や想定が誤っていれば当然で、台数の減少だけでは渋滞は解消しません。つまり、評価指標の設定が不適切だったことが、施策の効果が見えにくかった一因。単なるアウトプットではなく、アウトプットから導かれる「正しい評価指標」、例えば平均速度や渋滞回数などを継続的に取っていなかったことが、施策を講じても効果が出ず、今のような状況につながっている。	
● 都市交通マスタープランの骨子案について	
多核連携の集約型都市圏構造だが、今の需要に供給が追いつかない熊本都市圏に合ったものとは思えない。もう少ししっかり問題を見据えたテーマを設定すべきではないだろうか。熊本都市圏の発展を考えると大胆なことをやらないといけない気がする。	課題を認識したうえで、公共交通2倍、渋滞半減といった目標を掲げ、都市交通だけでなく、都市計画も含め関係機関が一体となって取り組む必要がある旨を記載。
8軸、2環状11放射の基本構造を静的な目標として捉えている。整備すべき軸の優先順位を段階的な目標像にして、動的に示していけないと、政府の大きな投資に応える都市インフラの計画が十分でないとなるので、もっと動的な評価・優先順位の組み合わせ評価をしてもらいたい。	本マスタープランでは、PT調査結果や関係機関等における施策展開状況等を踏まえつつ、基幹公共交通軸8軸や2環状11放射の道路網をこれまでどおり進めてたうえで、新たな視点も含めた都市交通の基本的な方向性を定めている。 将来像を達成するための段階的整備や優先順位などは、今後、アクションプランを策定する中で、実施主体や時期を検討したうえで進めていくことを記載。
この委員会は、しっかりとデータを取っているのが強みで、それに基づいて将来像を描くことが重要。たとえば公共交通を2倍にするには、どの軸で運行本数を増やすのか、サービスレベルや終電時間はどうすべきか、といった要素を明確に示す必要がある。そのうえで、自動運転モビリティのような流行りものに加えて、運転士の待遇改善につながる重要な取組みも含め、必要な予算を確保していくことが重要と考える。 市電や熊本電鉄などを含めて、公共交通への投資を明示し、道路と公共交通で渋滞を解消する将来像を、データに基づいてしっかり示すことがこの委員会の使命である。	

第6回委員会でいただいた主なご意見

主なご意見【第6回委員会】	対応案
●都市交通マスタープランの骨子案について	
<p>課題の整理が重要で、問題の解決のために何をすべきかを明確に打ち出すことが、まず第一段階である。例えば、桜町の再開発など、利用者にとって一番大事なのはバスサービスであり、バスターミナルの再開発やホールにどれほど大きな金額が投資されたかではなく、交通の利便性がどうなったかが本質。</p> <p>県市調整会議でも10年後の公共交通2倍が示されており、そこから逆算して、今何をすべきかを明確にする必要がある。そのためには、レビューや検証、課題整理ができていないと先に進めないで、そういったことを踏まえて、きちんとした計画にしていきたい。</p>	<p>課題としては、関係機関の役割を明確化、公共交通や道路施策との連携、マスタープラン及びアクションプランの進捗管理、モニタリング結果の共有として整理。今回のマスタープランでは、課題を認識したうえで、公共交通2倍、渋滞半減といった大きな目標を掲げ、都市交通だけでなく、都市計画も含め関係機関が一体となって取り組む必要がある旨を記載。</p>
<p>昨年、熊本経済同友会や商工会議所で交通渋滞に関するアンケートを実施し、「交通渋滞への会社としての取り組み」の設問で、約6割が「予定なし」、さらに16%が「必要ない」と答えており、あきらめムードが見られる。このような状況を変えるには、利用者に対してどう訴えかけていくかが重要であり、計画にはバスや鉄軌道の施策が記載されているが、インパクトのある内容にするには、交通運輸連合のように交通事業者が一体となって対応できる体制が必要。施策の中には、事業者が連携して取り組めるような内容をしっかりと盛り込むべきで、行政も資金面を含めて形づくりを明確にし、利用者にとっての利便性向上につなげていく協議を進めていきたい。</p>	<p>3章の都市交通に関連する動きとして、バス業界、タクシー業界、経済界が交通について、要望や提言を行っており、都市圏の様々な人が交通に関心を持っている状況。今回のマスタープランでは、各主体の役割を明確化し、連携して取り組んでいくことを記載。</p>
<p>もう少し明確なロードマップを作っていただく必要があると思う。短期・中期・長期と分かれてはいるが、「いつ終わるのか」が見えない。まず明確なターゲットとして「10年後に公共交通を2倍にする」と決まっているので、その数字をきちんとロードマップに組み込み、それに向けてバックカスティングで何をすべきかを整理していく必要がある。</p> <p>ふわっとした話ではなく、ターゲットが決まっているものを計画の中に明示していただきたい。そうでなければ、いつまでたっても中期・長期という話ばかりで、「一体いつまでやるのか」という印象になる。「203X年にこれを達成する」といった姿が見えるようにしてほしい。</p> <p>これは何度も繰り返し計画してきて、成果が出なかったという背景があり、今回こそは明確なロードマップを示し、それに基づいて施策を構築する。</p> <p>特に利用を高めるには、サービスの拡大が不可欠であり、それにはどのような投資が必要かという視点も盛り込まないと、公共交通の利用は進まない。そこが今回の計画の肝になると考えている。</p>	<p>公共交通2倍、渋滞半減といった目標を掲げ、それに向けてどういった方針で進めていくのか、その方針における主な提案施策という流れで将来交通計画を構成。</p> <p>ロードマップについては、5章の今後の取組みとして、アクションプラン等で検討することを記載。</p>
<p>この計画は、最終的に利用者が興味を持てるものでなければならないと思っており、興味を持ってもらわなければ行動変容は起きないし、それがなければ公共交通利用者も増えない。</p> <p>特に4章と5章、「考え方」と「施策」について、利用のイメージを持てるような具体性をもたせたい。</p> <p>また、今回の計画は20年後なので、それだからこそチャレンジングなゴールを設定して、それを目指すような計画にしていきたい。</p>	<p>4章の最初にまず公共交通2倍、渋滞半減を掲げたうえで、それを達成するために必要な方針を掲げ、提案施策という構成へ変更。</p>

第6回委員会でいただいた主なご意見

主なご意見【第6回委員会】	対応案
●都市交通マスタープランの骨子案について	
<p>運輸連合の話が出たが、マスタープランである以上、そこで使われるワードには、将来に向けてわくわくするような言葉をぜひ盛り込んでいただきたい。</p> <p>今の延長線上では結果は出ないと感じており、私たちバスなど公共交通のプレーヤーは、実行する責任を持っているが、行政にはぜひ、現場に気を遣いすぎず「こういう社会を目指す」という姿勢で方針を示していただきたい。その上で、我々もそれを実現するための課題を明らかにし、対応を始めることが解決につながると考えている。</p>	<p>4章では、運輸・交通連合の創設に向けた制度設計の推進などソフト対策も含め、公共交通の施策を記載。</p>
<p>物流の観点で申し上げますと、都市圏内に関してはサイエンスパークの話が資料に出ていたが、県としては「九州版サイエンスパーク」を進めていこうという流れもあり、そういった計画も必要になってくるのではないかと。広域的なネットワークでどう繋いでいくかという視点を、ぜひ入れていただきたい。</p>	<p>広域交通の観点や関連計画との整合を図り、交通体系のあり方として記載。</p>
●需要シミュレーションについて	
<p>アクティビティベースモデルという高度なモデルに工数、時間と人をかけすぎたということ。チャレンジングな取り組みを否定するつもりはないが、シナリオ分析の結果すら出ていない状況は、本末転倒である。本来は、このスケジュールでできるモデルを採用し、シナリオ分析をもとにプランづくりをすることが優先のはず。</p> <p>アクティビティモデルという高度なモデルの良さが生かされるアウトプットが現時点では見えない。</p> <p>プランを作ることが最終目的であって、モデルを作ることが目的ではない。</p>	<p>2章の将来の見通しとして、負のスパイラルが悪化する未来や4章の期待される効果を算出。</p> <p>関係機関や住民に分かりやすく、悪くなる未来や今後どうしていけば、よくなるのかを示すようシミュレーションを実施。</p>
●今後のスケジュールについて	
<p>パブリックコメントだけでなく、都市交通マスタープラン策定に向けて、県民・市民の意見聴取が重要であり、意見聴取の仕方を工夫するべき。</p>	<p>5章の今後の取組みとして、モニタリング結果の共有と合わせて意見聴取を検討。</p> <p>また、利用者の気運醸成に繋がる首長による打ち出し方や関係する会議体との連携など、本マスタープランの実現に向けた効果的な手段を取り入れる。</p>
<p>12月の委員会資料から進捗状況が遅れている。</p>	<p>第6回委員会以降、スケジュールを見直し、年末にパブリックコメントを実施できるよう素案を作成。</p> <p>当初の予定どおり、年度末の策定を目指す。</p>
<p>進行が遅れていると思うので、見直しや柔軟な対応を行い、住民の意見をうまく反映させたマスタープランを作成するべき。</p>	

第10回・第11回幹事会で素案にいただいた主なご意見

ご意見	対応案
2章 都市圏交通の現状と将来の見通し	
<p>将来見通しでは、高齢化対応の重要性が十分に示されておらず、まず人口減少と高齢者割合増加への対応を書いた上で、公共交通サービス衰退時の影響を示すべき。</p> <p>また、運転できない（されない）人も運転できる人も渋滞悪化で困るという2つの影響を明確に伝え、公共交通衰退の重要性を普段公共交通を使わない人にも理解してもらうメッセージにすることが必要。</p>	<p>高齢者等の交通弱者だけでなく、自動車利用者も日常活動に支障をきたすことを記載。</p>
4章 将来交通計画	
<p>計画作成に尽力されたことは理解しつつも、現状では道路建設を中心に解決策を考えている印象がある。バス事業者の立場からは、人口減少や利用者減少、地震やコロナの影響で経営が悪化し、減便→利用者減少→車増加→道路建設という負のスパイラルが続いてきた。そのため、計画ではまず「車を減らす施策」を重視し、道路建設による将来的な維持費負担も考慮すべき。</p>	<p>公共交通への転換を重要な視点と捉え、行政による取組や制度・財政支援、また、各主体との役割と連携のもと公共交通施策を推進していくことを記載。</p>
<p>公共交通施策については、より具体的な内容を盛り込みたい。11月段階では詳細を書けないものの、次のステップではバスレーン設置箇所や行政による投資の具体的な内容を提案施策に記載したい。豊肥本線の輸送力強化を中心としつつ、まちなかへの接続軸（新水前寺・南熊本など）やフィーダー、セミコン周辺施策などの目玉施策を明確に示すことが、都市圏交通MPでは重要。その他の提案施策については調整を経て可能であれば盛り込みたい。</p>	<p>公共交通施策は、盛り込むべきものはしっかり記載する。前回からソフト対策についても具体的に記載。</p>
<p>「4-1」で示される「ベストミックス」の意味や目標（例えば自動車割合など）が不明確であり、何を目指しているのかが伝わりにくい。また、P30に「都市交通体系の再構築」とあるが、目標や具体的方策の説明が後半に回っているため理解しづらい。「4.1.3 役割と取組の方向性」で住民などへの協力を求める内容が途中に挟まっているが、まず行政の方針と具体的に目指す方向・そのための手段等を先に示した上で、協力を求める流れにした方がよい。</p>	<p>行政として、目標、方針、重要な視点、主な提案施策という項目で、4章の構成を変更。役割と取組みの方向性については、5章の今後の取組みの一つとして、各関係者への役割と取組みの方向性を記載するよう構成を変更。</p>
<p>運転手の確保が事業者任せになっている。交通事業者だけの責任ではなく、行政が支援していくことが重要。もう少し踏み込んだ施策（人材育成制度等）や支援の方法を記載いただきたい。</p>	<p>4章で、運転士不足への支援に関する内容を具体的に記載。</p>

第10回・第11回幹事会で素案にいただいた主なご意見

ご意見	対応案
5章 今後の取り組み	
<p>前回のマスタープランやその他の計画でも同じことが言えるのだが、計画策定後、実行に移すのが難しい。やはりアクションプランが大切である。</p>	<p>1章の振り返りでも進捗管理やモニタリングの実施は課題認識としており、実行計画であるアクションプランやモニタリング機関の設置といった今後の取り組みについて記載。</p>
<p>エリア全体で均等に施策をやっていかないといけないのか。エリアによってメリハリをつけていくことが重要。アクションプラン等で具体化していく際に、検討していただきたい。</p>	<p>5章で、短期、中期、長期やどのエリアから実施していくかといった段階的な整備について、アクションプランで引き続き検討を進める。</p>
都市交通マスタープラン全体	
<p>公表時に豊肥本線強化以外でも目玉となる施策を盛り込み、首長と調整しながら戦略的に発信することが重要である。交通で盛り上がっている都市圏であるため、タイミングや打ち出し方を慎重に計画しないと、成功が損なわれる可能性がある。</p>	<p>利用者の気運醸成に繋がる首長による打ち出し方や関係する会議体との連携など、本マスタープランの実現に向けた効果的な手段を取り入れることとする。</p>
<p>今後の検討でMPに盛り込むことと、来年度以降のAP等に盛り込んでいくものの仕分けをしていくことが重要。</p>	<p>本マスタープランにおいては、P T結果や関係機関等における施策展開状況等を踏まえつつ、都市交通の基本的方向性を定めることとし、その実現に必要な提案施策を示したうえで、目指すべき目標水準を定めることとする。これに伴う技術的な内容は技術編にて整理し、今後、A Pを策定する中で、A B Mによる推計熟度を高め、実施主体や時期を整理した実施施策として整理していく。</p>
<p>技術的な話はバックデータとして技術資料に整理し、書くべき内容はAP等にしっかり記載することが重要。</p>	